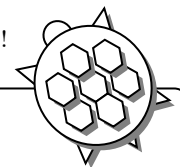


亀さん通信

すっかり秋らしくなりましたが、いかがお過ごしでしょう？

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身につけていただく【亀さん通信】第 157 号の発信です！



『見切り千両』

株のトレードやFXなどで用いられる「ロスカット（損切り）」という用語があります。ロスカットとは、**損失がさらに大きくなるのを未然に防ぐ**ためにポジションを決済すること。文章にすれば簡単ですが、いわば極意といっても過言ではなく、ロスカットがしっかりできない人は成果を出せません。しかも資産運用だけに限られた話ではなく、ロスカットはビジネスや人生においても非常に大切な考え方です。

ある株初心者の話。このところの株高で興味を持ち、思い切って 100 万円分の株を購入（株価 1,000 円×1,000 株）しました。下がると思っている株をわざわざ買う人はいませんから、上がると予想していたわけです。ところが、思惑に反して株価は下がり始めました。初心者には胃が痛くなるような由々しき事態です。950 円まで下落し、5 万円の損失を抱えることになりましたが、彼は考えました。「もう少し辛抱していれば、**1,000 円まで戻るかもしれない**」と。しかし、幸運の女神は彼に微笑まなかったようです。非情にも株価は 900 円まで下落して 10 万円の損失に。様子見が完全に裏目に出たわけですが、またしても彼は考えました。「もう少しだけ我慢していれば、**上がるかもしれない**」と。結果、株価は 800 円をさらに割り込んで 700 円に。こうなってはもう売りに売れません。**せめて買値まで**と日夜お祈りする日々が続きます。そして 1 年後。ついに彼の祈りが天に届きました。なんと株価は買値の 1,000 円まで回復し、念願だった 100 万円を手にしたのです！しかも株を売った直後に、株価は再度下落を開始。1,000 円まで戻ったとき、欲を出さずに売りさばいて見事に損失を回避したのです。「俺もずいぶん株のことが分かってきたようだ！」と、大層悦に入る彼でした。おしまい。

この話、どう思われました？初心者の大半が同じようなことをやっていますし、長年経験があるのに勝てない人もまた然り。では、勝っている人はどうしているのか？その答えが、冒頭で述べた**ロスカット**です。勝っている人は**自分が設定した水準まで株価が落ち込む**と、損失の拡大を防ぐためにポジションを決済する、要するに持っている株を売ってしまうのです。例えば上記のケースで、株価が 950 円になった時点でロスカットして 5 万円の損失を出した人、そして 1 年後に買値で売って損益が±0 円の人。これだけで比較すれば、後者の方がうまく立ち回ったように思われます。しかし、株を保有している間は、その資金で**他の株を買うことができません**。それに株価が買値まで戻ったからいいようなものの、そのまま下落が続けば、いわゆる「塩漬け」になって目も当てられない状況に。一方、前者は 5 万円の損失と引き換えに、残額の 95 万円と時間、即ち**儲けられる機会**を得ました。新しく買った株が上がれば、5 万円の損失なんてすぐに取り戻せますし、それ以上の利益も期待できます。もちろん勝てる保証はありませんが、その場合はロスカット。株を買って全戦全勝なんて絶対にありえません。儲けられる機会を持ち続けていれば、いずれ花開くときがやってきます。

「見切り千両」とは相場の格言です。損には違いないが、それによって大損を避けられるのなら、**千金の価値**があろうというもの。「せっかく買ったんだから」「せっかく始めたんだから」と、投入したお金や時間などの資源に見合う価値を生み出さないものを持ち続けたり、やり続けたりすると、時間という人生の貴重な資源を失う、つまり**得られたかもしれないチャンス**を失います。また、かえって**大きなリスクを抱え込む**ことにもなりかねません。もちろん継続が大切であることは言うまでもありませんが、**資源を注ぎ込む対象の見極め**が肝要ではないでしょうか。ロスカットとは損失が現実になってガッカリすることではなく、未来に向けての前向きな行為なのです。ということで、くれぐれも**ロスカットはお早めに！**

台風 22 号にはお気をつけください。

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（㊟北㊟） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com